

**特定非営利活動法人
日本雲南聯誼協会**

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1階

Tel. 03-5206-5260 Fax. 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org

URL: <http://www.jyfa.org/>

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室

Tel. +86-871-3311468 Fax. +86-871-3320658

編集・発行人 初鹿野憲蘭

印刷協力 横日経印刷 横技術評論社



彩雲の南

第27号

会報

発行日 2008年(平成20年)10月10日

少数民族の女の子が教育の機会を得られるよう、

25の小さな夢基金にご協力ください！

中国雲南省の少数民族地域では「女性は家事をするもの」
学校に通えない女の子が大勢います

中国雲南省の少数民族地域には、貧困から教育を受けられない子供たちが大勢います。特に女の子は「女性は家事をするもの」という慣習から、義務教育後の高校進学に周囲の理解を得られず、学ぶことを諦めざるを得ない女の子が大勢います。

私たちNPO法人日本・雲南聯誼(れんぎ)協会は、そんな女の子の受け入れ支援を行っている雲南省昆明市の学校「昆明女子中学校(中高一貫校)」と協力し、同校「春雷高校生クラス」に通う女子生徒を対象とした学費支援を行っています。

少数民族の女の子にも、等しく就学の機会を與えたい。才能を育み、やがては日中友好の架け橋となってほしい。そんな思いから、当協会では、春雷クラスに通う女子生徒

の就学費をサポートしてくださる、里親会員を募集しています。

昆明女子中学校は、1908年開校の100年近い歴史を誇る、雲南省唯一の中高一貫校。1997年、同校は優秀な成績でありながら、高校進学が危ぶまれていた少数民族女子を対象に、奨学金制度のある「春雷高校生クラス(全寮制)」を開設しました。現在、約280名の女子高校生が同クラスに通い、一生懸命勉強をしています。

当協会「25の小さな夢基金」は、現在奨学金を持つ女子高校生を対象に、同クラスに通うために必要な学費、親元を離れて暮らす子供たちの寮費・食費を含む、生活費として使われます。現在、当基金を通じて50名の生徒が支援を受けています。

女の子たちの小さな借が、いつか大輪の花を咲かせられるよう、皆様のご協力を待ちています。

サポートを待つ生徒たち

雲南省各地域から、成績優秀ながらも貧しさのために進学が危ぶまれていた子どもたちが、奨学金を受けながら「春雷高校生クラス」に集まりました。支援を必要としている生徒の一例をご紹介します。



蔡倫保(タイ族)
高校2年生。雲南省德宏州瑞麗市出身。「医者か教師になりたいです。明朗で時に渡りらしい性格です。でも強くう時は誰にも負けず頑張ります。学校生活は楽しく、友達と助け合いたいです。」



和嘉珍(ナシ族)
高校2年生。雲南省麗江市玉龍県出身。「貧しい環境で育ったので積極的で我慢強いです。最も尊敬しているのは両親と先生です。私のために全てを捧げてくれたから。将来、故郷で幼稚園を作りたいです。」



姚曉霞(チワン族)
高校2年生。雲南省文山州富寧県出身。「私は二つの性格があります。時に静かで自分の世界に没入し、時に前向きに努力し自分の夢を描きます。外国语専門大学で勉強し、他国の人と交流したいです。」



孔玲嬌(ペー族)
高校2年生。雲南省保山市隆阳区出身。「故郷は辺鄙な山居地。性格は前向きで、自尊心があります。私は自分の努力で運命を変えるたいのです。将来は教育方面の仕事で、故郷の発展のために尽くしたいと思います。」



申權美(イ族)
高校2年生。雲南省楚雄州武定県出身。「私は活潑で負けず嫌い。読書が好き、踊りは苦手。曲がったことが大嫌いで、責任感が強いのが良いところかな?将来は社会福祉と教育で力を発揮したいです。」



益永妹(ヤオ族)
高校2年生。雲南省文山州富寧県出身。「私は活潑で負けず嫌い。読書が好き、踊りは苦手。曲がったことが大嫌いで、責任感が強いのが良いところかな?将来は社会福祉と教育で力を発揮したいです。」

里子訪ねて 昆明女子中学訪問記



~国境を越え、結ばれる絆~
当基金の支援者が里子に会いに、雲南へと向かいました

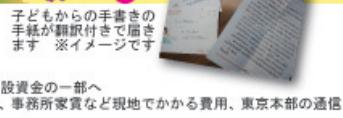
雲南省2回目の旅は、最終訪問地の昆明で最終日を迎えました。そしてこの日は、現在、私が「25の小さな夢基金」を通して支援をしている生徒を訪ね、昆明女子中学校を訪問する日です。

協会雲南支部の張さん、王さんの案内で、協会の雲南支部を出発します。車で10分程度の街の中心地にある昆明女子中学校は創立100年を迎える由緒ある学校とお聞きしました。学校となるとどうも私はいつも緊張てしまいます。まるで、自分の娘の三者面談に来たような気分で、夏休み中でひっそりした校舎の方に向かうと、林副校長先生と我が娘Cさんがお出迎えてくれました。

さっそく林副校長先生の部屋に案内され、ご挨拶とCさんの近況報告をお聞きしました。先生の指示で自己紹介を始めたCさんは、16年ぶりに再会した我が娘のような気がしてきて、思わず目がウルウル状態になってしましました。明るく挨拶するCさんは、想像したとおりとても素直でしっかりした娘でした。

私の昆明までの足跡とともに、本校を訪問しての感想を挨拶としてお話しをさせて頂

25の小さな夢基金概要



【支援者年会費】
3万円/年 (一括・分割納入)

子どもからの手書きの手紙が翻訳付きて届きます※イメージです

【会費の内訳】

50%…里子の学費支援費用

20%…雲南省貧困地域への小学校建設資金の一部へ

30%…現地スタッフの給料、交通費、事務所家賃など現地でかかる費用、東京本部の通信・印刷費などの経費

手紙を通じて、里子と交流しませんか?

<http://www.jyfa.org/>

実際の手紙の詳しい内容も掲載した、当協会のウェブサイトにアクセス!

【サポート期間】

最低一年(できれば、里子が高校を卒業するまでの期間をサポートしていただければ幸いです)

【里子との交際】

里子と触れあう族(年に一回)、手紙のやりとり(不定期)個人差があります。必要に応じて、日本語・中国語に翻訳、里子への小さな贈り物など、心温まる交流ができます。

【里親に送られるもの】

学校からの報告(写真付)が年に一回送られるほか、里子、学校の活動記録、学校からの年賀状が届けられます。

善意のナイスショット!

第四回雲南省教育支援 チャリティゴルフコンペ

2008年9月6日(土), 山梨県のオリムピックカントリークラブにて、オリムピックカントリークラブ、東京たまがわロータリークラブのご協賛にて、「第四回雲南省教育支援チャリティゴルフコンペ」が開催され、大盛況のうちに終了いたしました。

当日は、朝方少々曇りがちでしたが、徐々に陽が射してくる絶好のお天気。しかし、スタッフやボランティア、関係役員の皆さんがゴルフ場に到着すると、中央自動車道でトラック2台による衝突事故がおこったとのニュースがあり、一同緊張に包まれました。

参加の方々は会場を目指して、中には4時間かかっても、なお諂ひめずに来てくださった方もいらっしゃいましたが、4人1組のメンバーが全て揃うのにはかなりの時間がかかりそうとの判断で、急遽チームを組みなおして、開始時間を遅らせることになりました。この大きなアクシデントにもかかわらず、最終的には115名の参加者に集まっていただけました。

各ショートコースでは、ボランティアスタッフが民族衣装を着て、募金箱を持ち待機しているチャリティホールを設けました。その頃、受付業務を終えたボランティアスタッフは、参加の方々の休憩室と懇親会会場の設営に大忙し。前もっていただいたご寄付の品々に加え、当日もたくさんのお品物をいただき、それをコンペの表彰用に順位別に分けています。

休憩室には、サッポロホールディングス株式会社様からご提供いただいたドリンクを冷やして準備し、テーブルの上には協会のパンフレットや活動紹介のパネル、雲南省の民芸品などを並べました。また懇親会場でも、準備が整々と進んでいました。

16時半ごろから、プレーを終えた皆さんが休憩室に集まり始めました。お飲み物を飲みながらくつろいだ憩い空間の中、雲南省の雑貨販売も行い大好評でした。

18時、懇親会と表彰式が始まりました。懇親会の開始が遅くなつたにもかかわらず、ゴルフにご参加下さつた方々はほとんど残って出席して下さい、会場は熱気に包まれていました。



建設支援候補校の視察、 建設後フォローアップ調査の報告

今年度も、過去に建設支援をした小学校のフォローアップ事業としての実態調査や、次年度の建設支援候補校の視察に、協会スタッフは雲南省内を東奔西走しています。

1月と4月には、初鹿野理事長と雲南支部スタッフが、東京たまがわロータリークラブの皆さんと楚雄イ族自治州武定県插甸鄉老木堰村を訪問し、支援候補地である「老木堰小学校」を視察してきました。また、5月には次年度候補校の視察のため、東京本部スタッフが麗江市玉龍県の2校の学校を訪ねました。7月、8月は雲南支部スタッフが西南部に位置する臨滄市双江県の支援候補の学校を視察し、その後西北部怒江リス族自治州に属する第4、6、7、16校目の支援校をそれぞれ訪問し、フォロー

楚雄イ族自治州武定県 老木堰小学校

武定県插甸鄉は昆明市の北北西に位置し、昆明市から約80km。老木堰村は貧困、民族、宗教、寒冷の4つの特徴を持つ山岳村です。老木堰小学校はこの老木堰村委員会で唯一の完全小学校(1~6年生までの全ての児童が通っている学校)で、クラスは6つあり、124名の児童が学んでいます。寄宿生は86名おり、全員リス族とイ族です。

この学校は、1994年に現在の場所に移転し、校門、囲い塀、トイレ、運動場を改修し、学校環境の条件は大きく改善しましたが、1995年と2000年に起きた二つの地震により、校舎が国家D級の危険建築物に指定され、生徒と教師たちは危険と隣りあわせで勉強しています。この小学校は地盤の5つの自然村、10の村民組合の子どもの六年制義務教育任務を担っています。しかし、この地域の経済力では、破損した校舎をすぐに改築することができず、任務を果たすことが難しくなっています。



校舎の天井はぼろぼろでした



イ族の民族衣装を着た子どもたち

まず、主催者として、初鹿野恵蘭理事長、東京たまがわロータリークラブ三木秀隆会長がご挨拶をし、また会場となったオリムピックカントリークラブの支配人・大久保雄之介さんからもお言葉をいただきました。続いて、乾杯のご発声を、サッポロホールディングス株式会社名譽顧問・岩間辰志会顧問にお願いし、会食となりました。

そしてよいよ、メインイベントのオークションです。こちらの司会は、東京たまがわロータリークラブ・バスト会長の牧田正之さんが担当して下さいました。

商品には、有名スポーツ用品会社のゴルフバッグやプロゴルファーのサイン入り帽子、バターなど魅力的なものばかり。牧田さんの流れるような司会で、皆さん次々と競り落としていかれます。最後には雲南省の特産、ブーアル茶や雲南省白族を描いた藍染の貴重な掛け軸などもオークションにかけられました。お陰さまで商品はどれも完売!本当にありがとうございました!

続いて、表彰式です。順位の発表と共に、参加者全員に賞品が手渡されます。皆様の活躍に、惜しみない拍手が送られていました。ちなみに、今回の優勝者は馬場弘行さんです。おめでとうございました!

今回のご寄付やオークションの収益金の合計は、7.5万円以上にもなりました。この大きな成果に、協会一同深く感謝しております。ご厚志は雲南省の子ども達の小学校建設資金として、大切に使わせていただきます。



に良い会いす
場か
全田一
体さ
もんてん
大のん
盛司ホ
かが
況会の
が



たくさんの方々協力に感謝!



【会計報告】

コンペ参加費チャリティ 345,000円 (115名)、
ご祝儀 122,000円 / チャリティホールカード 112,000円 (112名)

オークション売上 176,960円 / 合計 755,960円

【ご寄付一覧】

オリムピックカントリークラブ / 株式会社技術評議社 /
サッポロホールディングス株式会社 / 東京たまがわロータリークラブ /
泊江ロータリークラブ / 立川こぶしロータリークラブ /
鶴橋むらさきロータリークラブ / 東京三鷹ロータリークラブ /
株式会社東海 / 株式会社ナイチングール / NPO法人21世紀のカンボジアを支援する会 /
日経印刷株式会社 / 日本ケイムエクス急株式会社 / マミヤOP&UST / 合資会社村上製作所 /
メディネットイントーナショナル株式会社

その他、多くの方々にご寄付いただきました。この場を借りまして御礼申しあげます。

【懇親会ご挨拶の皆様】三木秀隆(東京たまがわロータリークラブ会長) / 大久保雄之介(オリムピックカントリークラブ支配人) / 岩間辰志(サッポロホールディングス株式会社名譽顧問・岩間辰志会顧問) / 唐澤英安(NPO法人日本・雲南聯説協会 理事) / 初鹿野恵蘭(NPO法人・雲南聯説協会 理事長)

【当日ボランティア協力】(敬称略・國不同)蒲澤崇、NORI N(のりね)、富安朱見、笠置麻未、星かおり、林晶、三木秀隆、牧田正之、初鹿野恵、水口俊裕 / NPO法人日本・雲南聯説協会 会員・中村有里子理事、遠藤幼助理事、唐澤英安理事、初鹿野恵理事、東郷浩樹、曹光顧問、寺内明子大宮支部長、初鹿野恵顧問事務長、東原本部(七田裕・橋本富邦・杉本文子)

50の小学校プロジェクト

当協会が雲南省に住む25種族の少数民族貧困地域に、2校ずつ小学校を建設支援しよう、という事業。現在までに16校の小学校が完成している。

アップ事業の一環で、専門家の意見を聞きながら校舎の耐震について調査したり、教員たちへの聞き取りを行いました。特に、今年5月に四川省で発生した大地震では、多くの小学校が崩れ、子どもたちが犠牲になったことをふまえ、当協会が建設支援をした小学校の校舎の耐震構造については、関係者から実際の施工図を見せてもらいながら念入りに話を伺いました。

昨年夏以降に視察を行った他の候補校と今回視察した学校をあわせ、検討をした結果、以下の2校を次年度建設支援をしていくこととなりました。それぞれ、建設工事が開始し、来年の2月には竣工予定です。

臨滄市双江県 清平小学校

臨滄市双江県の中心部から車で1時間半、清平村は、緑豊かで風光明媚、家々の赤い屋根が印象的な村です。臨滄市は、省内でも産業が遅れていて、ラフ族やワ族など、国が指定した「特別貧困民族」が住んでいる地域です。

清平小学校はラフ族の児童が約6割を占め、その他ワ族、タイ族、漢族などがあり、児童数は114人です。山岳地域のため半寄宿制となっていて、寄宿生は80人。教職員は9人います。

政府の施策により、清平村の教育水準は徐々に高くなりつつあります。入学率は98%に達しています。将来迎撃の年少クラス(1~2年生)の児童たちがこの小学校に編入するようになると、児童数は増加します。しかし、清平小学校の校舎や宿舎は狭く、建築耐用年数も過ぎています。1988年の大地震による天井、壁の変形もあり、幾たびの修理をしましたが、根本的な問題解決にはなっていません。そのため、新しい建物の建築はいつしか村人と学校全員の強い希望となっていました。



耐震構造について念入りにチェック



建設中の、鉄筋の新校舎

中国の大学生、日本の家庭を1日体験 日中友好青少年友好交流年記念事業に協力しました!



レセプションで学生たちがコーラスを披露してくれました

2008年7月26日(土)~27日(日)の一泊二日で、中国からの大学生330人が日本の家庭にホームステイしました。これは、外務省が日中平和友好条約締結30周年を記念し、2008年を「日中青少年友好交流年」と定め、その活動の一環として実行なったものです。当協会にも、日中友好協会からご依頼があり、東京都八王子市または千葉県幕張市の近くでホームステイさせてくださる方を募集したところ、船橋市の会員の方が快く引き受け下さいました。また、八王子市では初鹿野理事長が2名の学生を受け入れることになりました。

26日13時、八王子商工会議所で大学生たちと対面。彼らはコーラス部の学生とのことで、挨拶の式典では、日本語で「あかんぼ」を合唱してくれました。それからホームステイ先の家族と共に、各家庭に分かれていきました。初鹿野理事長宅に泊まったのは、王梓さん(21歳)と楊伯特さん(23歳)、瀟陽出身の北京大学生です。(北京大学からは約1000人が来ました)楊さんは中国語専攻で以前にも日本に来たことがあります、ご両親とも大学教授だそうです。王さんは新聞・伝播専攻(ニュース報道関係)で将来はジャーナリストになりたいとのこと。初来日で、こちらの両親は音楽家とのことです。理事長宅に到着すると、会員の東郷浩さんは待っていました。東郷さんは中国語を勉強されているので、中国語で交流できたことがとても嬉しかったようです。お話を大いに盛り上がってきました。ひと休みしてから、一行は多摩御陵見学に。見事な杉並木や日本の陵墓に感心した様子でした。



スーパーの売り場に並ぶ浴衣を前に興味津々のご様子!

今回の交流の趣旨は、日本の普通の生活を体験し、ありのままの姿を理解してもらうことです。そこで、彼らに日本のスーパーを見せようとイトヨーカドーへ。ちょうど浴衣の季節で、浴衣をみた楊さんは自分の母親に買ってあげたい!と早速購入。素敵なお土産を買うことができて喜んでいました。また王さんは、日本の国民の生活レベルは中国よりも高いと感想をもらしていました。夕食は、小山久子顧問も加わって日本食を食べ、さらに八王子花火大会へ行くなど盛りだくさんの一日。夜も、寝るのがもつたないと深夜まで話が続きました。彼らは、自分の家族のことなどをたくさん話してくれました。

初来日の王さんは、今まであまり日本についてはつきりしたイメージを持っていなかったそうですが、今回の訪問でよい印象を持ってくれたようです。歴史や国民性など気に入った、必ずまた日本に来たいと話してくれました。二人とも北京という大都会育ちとは思えない素朴な人柄で、学歴を自慢するようなところもなく、謙虚で優しい学生たちでした。翌日、再び八王子商工会議所へ車で送りに行きましたが、2人とも離れたくない思いでいっぱいです。理事長と抱き合って泣いていました。今回、一泊だけのホームステイでしたが、お互いの紹介はとても深まったといえるでしょう。テレビやインターネットではわからない、素敵の日本を分かってもらえたのではないか。このような交流活動が末永く続いていることによって、お互いの理解が深まり、日中がよいパートナーになることを願っています。



さようなら、さようなら! いつまでも手を振っていた学生と日本側の家族たち



日中の学校交流の夢をかたちに 東京たまがわロータリークラブ定例会に出席

2008年8月20日(水)、東京たまがわロータリークラブの定例会に初鹿野理事長と東京本部・七田が出席しました。

東京たまがわロータリークラブでは、今年度より当協会と協力しながら、中国雲南省の貧困少數民族児童への教育支援活動を行うことを計画しています。1月と4月には、同クラブのメンバーが協会の支援先である雲南省の小学校を訪問しています。この取り組みは同クラブの三木秀隆会長と、山根洋利さんが中心になって進めていらっしゃるもので、将来的には、活動の輪を他地域のロータリークラブへと広げ、更には都内の小学校と雲南省の小学校の交流も図っていきたいとのお考えです。



今年の1月に雲南省の小学校を視察した際、一族の舞踊を体験するロータリーの皆さん



雲南省の子どもたちが日本の子どもたちのために描いた絵 民族のお祭を紹介している



泊江市の学校校長先生やPTA関係の方も10名ほど集まりました



参加者からの質問に答える初鹿野理事長 左はロータリークラブ山根さん

イベント予告掲示板

2008年
11月
5(水)~9(日) 小さなカメラマン写真展
中旬以降 第12、18回目小学校開校式の旅
12月
20(土) チャリティ忘年会
各イベントボランティア同時募集中!

チャリティ忘年会のお知らせ

年に一度のお楽しみ
日本・雲南聯説(れんぎ)協会恒例のチャリティ忘年会の日取りが決まりました!会員の方、そうでない方も、楽しく年忘れ!

日 時: 2008年12月20日(土)
17:00~19:00
場 所: ピヤステーション恵比寿
(東京・恵比寿)

小さなカメラマン写真展 ~子どもたちの見たふるさと中国・雲南省~

当協会が建設支援をした小学校で学ぶ子どもたちが、初めて手にする使い捨てのカメラで、普段着の生活を自由に撮影しました。これらの写真から、彼らの置かれている現状を知ってもらいたいと「小さなカメラマン」写真展を開催しました。子どもならではの柔軟な感性で撮られた写真是、時に新鮮で、時に感動を呼び起こします。当日は写真のほか、写真を撮影した子どもたちからのメッセージや作品も展示予定です。

日 時: 2008年11月5日(水)~9日(日)
10:00~18:00
場 所: 恵比寿麦酒記念館内ギャラリー
(東京・恵比寿)
入場無料

各イベントボランティア同時募集中!



イベントボランティアのお仕事は、事前準備の段階では、展示物のデザイン、作成や会場セッティング、荷物の運搬など。また、イベント当日は写真撮影や来場者への活動説明、商品販売などがあります。協会では、現在様々な形でボランティアが活躍中です。

協会トップニュース

活動紹介のDVDができました!
株式会社DNP映像センターのご協力

東京・8月

ご支援の報告



NPO法人地球映像ネットワーク太田裕久代表からのご紹介で、株式会社DNP映像センターの小須田祐二さん、森川雄一郎さんが中心となって「協会の活動紹介DVD製作チーム」を結成され、昨年の冬より撮影や編集を重ねてきました。そしてこの8月、「中国雲南省での学校づくりへ子どもたちがつなぐ日中の架け橋～」というタイトルの協会の活動PR用DVDが完成しました。制作をすべてボランティアで引き受けくださった小須田さんの懇の深さに、心より感謝申し上げます。

今後、様々なイベントでこのDVDを上映していきたいと考えています。また、貸し出しも行いますので、ご入用の方は協会東京本部までお問い合わせください。

協会支援校で3週間の教育実習

故郷雲南の子どもたちに授業の楽しさ伝えたい

東京・8月27日

教育支援



今年3月3日～28日の間、協会支援校第11校目白雲小学校にて、協会ボランティア陸欣姫さん(恵泉女子大学の留学生で、雲南省出身)が教育実習を行いました。3週間の間、学校で子どもたちと穀食をともにしながら交流を深め、図画工作や音楽、国語の授業などを担当しました。

8月27日に陸さんが東京本部を訪れ、3週間の成果を報告してくれました。折り紙や絵の具を使っての授業を実施すると、学校の先生たちからは、「図画工作や音楽などの教科ではなかなか専門的な知識も教材もなく授業ができることが多い」と言葉がありました。白雲小学校に限らず、雲南省の僻地の小学校では、カリキュラムで決められている科目を先生方が実際には指導できずに入国語、数学で授業の大半を占めてしまうことが多いのが現状です。授業の内容については、教科書の音読、暗記がほとんどです。今後も継続して授業内容を魅力的にするお手伝いがしたいと陸さんは語ってくれました。



血行不良は万病のもと、
このような方にお勧めします。

- 健康維持したい方
- 免疫力を高めたい方
- 軽さわやかに目覚めたい方
- 美容が気になる方
- 体力増強したい方

ご注文: 電話 042-659-2997

雲南を彩る25の星たち

旧暦の8月15日(新暦の9月14日)は、中国伝統の中秋節です。中国では、春節の次に重んじられている大切な祝日です。秋の真ん中という意味で、「中秋」あるいは「仲秋」と呼ばれています。日本も同じでしょうか。8月は、月が一番丸くて明るいため「月夕」或は「八月節」とも呼ばれます。中秋の月は、人々はみな家族団らんで過ごします。月と家族団らんの意味を取って、「团圆節」とも呼ばれています。中秋節はまた漢民族と一部の少数民族の伝統祝日です。トン族、ミャオ族、チワン族、タイ族、満族、朝鮮族など20種類の民族も中秋節をお祝いします。

雲南省西南部に居住するタイ族は、中秋の夜に月を拝む風習があります。

タイ族の伝説の中では、月は天に住む神様の第三の息子「岩尖(人名)」が姿を変えたものだといわれています。岩尖はとても勇敢で強い青年でした。彼はタイ族を率いて敵を破り、タイ族の人々からとても尊敬されていました。ところがある日、岩尖は病気で亡くなってしまいます。彼は、亡くなつてから月に姿を変え、その後ずっと、暗い中でもタイ族の人々を明るく照らし続けているのです。

中秋節の日、タイ族の男性たちは歌を持って山へ狩猟に行き、

若い女性たちは、湖や川に行って魚を捕り、年配の女性は家でいろいろな食べ物を作り、夕食に備えます。家にあるテーブルの四隅に、1つずつお餅を置き、お線香を1本さしておきます。夜になって月が昇ると、そのお線香に火をつけ、家族全員が月を拝んでから空に向かって銃を鳴らし、岩尖に対する敬意を表します。最後に、家族全員テーブルを囲んで食事をしながら月見をするのです。

雲南省Liu(梁さん)いに「路」西県に住むデアン族は、中秋節になると「申月」の風習があります。夜、人々は村の周りにある川、池、水たまりに映った月の影を1回ずつ手に汲み取り、ひと通り終わったら戻り、家族団らんで月見をします。

雲南省の世界自然遺産・石林に遊びに行ったことのある方は、園内の広場でイ族の踊りを見たことがあるかもしれませんね。彼らの踊りは「阿羅跳月」と言います。石林に住むイ族の支系「阿細人(サニ人ともいう)」の中秋節は、「跳月」という風習があります。中秋の夜、村の人々は広場に集まり、火を灯して心ゆくまで踊るのです。特に男女の間で交わされる恋愛の「対歌(男女一人ずつが意味のある歌を歌い、会話をのように続けていく歌)」は、月夜に感動的に響き渡ります。

(雲南支部・林嬢) イ族「アロ跳月」時には男女が向かい合って踊ります

彩雲の南

雲南省は中国最西南部に位置し、ミャンマー、ラオス、ベトナムと国境を接しています。面積は約39万km²(日本とほぼ同面積)、人口約4300万人です。土地の94%が山地で、海拔760mの河口から6740mの梅里雪山という高山も存在する特色豊かな地域。世界遺産登録地も多く、最近では観光面からの注目を浴びています。



雲南省の子どもたちのために! 支援品を運ぶボランティアを募集します

協会からのお知らせ

当協会に寄贈していただいた特別デザインの学習ノート1000冊を雲南(昆明市内)まで送りたいと思います。が、エアカーゴで送った場合、梱包などの諸経費を含め、ざっと25万円の費用が必要になります(1冊当たり約250円の輸送費がかかります)。

当協会の財政事情、それに最近はやりの「費用対効果」を勘案すると…。どうしたものが、現在、思案投げ首の状態です。そこでお願いがあります。

雲南へのご旅行を予定されている方、もし手荷物の重量に余裕があれば15冊以上何冊でもけっこうです。この学習ノートを雲南の子ども達のために雲南まで運んでいただけないでしょうか?ご協力をいただける方は当協会までご連絡下さい。よろしくお願いします。

特に、海外への輸送業務にかかる企業の方から一括輸送のお申し出があれば、大いに助かります。ご一報をお待ちしております。



1冊のノートの
 ・サイズはA4版(210mm×297mm×5mm)。
 ・重量は272gです。
 ・15冊1セットで4kg強の重さになります。
 運んでいただく数量は
 15冊以上何冊でもけっこうですが、
 15冊、30冊…と15冊単位でお願いできれば助かります。

入会等のご案内

協会からのお知らせ

NPO法人日本・雲南聯誼会(れんぎ)協会では、中国雲南省の貧困少数民族への小学校建設・フォローアップ支援を柱とした活動をしています。当協会パンフレットや会報バックナンバー、入会のお申し込みについて協会東京本部(本誌表紙頁の上部をご参照ください)までお気軽にお問い合わせください。



日本雲南聯誼会(れんぎ)
 ■三菱東京UFJ銀行
 ■自駒駅前支店 普通 1300380
 ■郵便振替口座番号 00100-8-610935

少数民族の中秋節

